

## ご存知ですか？ サーカスの火事

満員のサーカス全焼

哀れ猛獣の焼死体

十八日午後四時頃蒲田区女塚町四ノ九先空地に天幕を張って興行中のシバタ・サーカスの猛獣留場付近から発火、烈風に煽られて瞬く間に五百坪の天幕を全焼した。土曜日の午後とて七百名からの観客が寿司詰めに入っていたので出火と同時に蒲田、大森両署員、付近在郷軍人、青年団員等が馳せ付け百三十余名のサーカス団員と協力、天幕を破って逃げ出す観客の誘導と猛火を浴びて咆哮する動物の救出に力めた。

一時間燃え続けて同五時鎮火したが、見物中の姉妹の姉(四才)は全身に打撲裂傷、妹(二才)は顔面に裂傷を負い、救出に活躍していた大森署員は全身に打撲裂傷を受けた。

尚救出危険のためライオン三頭、豹一頭は見殺し、焼跡には犬猿二十四匹の焼死体と全身に火傷を負った駱駝と小象の憐れな姿が発見された。蒲田署で団長以下関係者を召喚して原因その他を調べているが損害は約七万円の見込み。

以上の記事は、昭和十四年三月十九日付、東京朝日新聞の社会面よりそのまま引用したものです。(一部表

現の変更、個人名を削除させていた  
だいています。)

この火事騒ぎを起こしたサーカス会場のあった広場と道を挟み、目の前でガラス店を経営していたのが現在、矢口消防団長、若林登氏のお父様でした。

当時、就学前だった若林氏は、今でもその時の状況をはっきりと覚えていてるそうです。

テント張りの会場は、柱や梁の骨組みは全て丸太と荒縄で組まれ、観客席は笹敷きのため、火はアツという間に燃え広がってしまいました。

泣き叫ぶ幼子を抱きかかえ、あるいは幼児の手をしつかり握り、慌てふためいてテントから逃れ出る親子や家族連れ、燃えさかる火の中から象や馬、ラクダを必死で連れ出すサーカス団員の姿、ものの一時間あまりで焼け落ちた無残な焼跡、今でも臉の裏に焼きついて離れないと、悲惨な思い出を語ってくれました。

(勝俣・石渡委員)

### 蒲田西特別出張所 管内

人口	男	30,318 人
	女	27,636 人
	計	57,954 人
世帯	31,868 世帯	

平成24年5月1日現在

## 事務局からのお知らせ

着任のご挨拶

本年4月に蒲田西特別出張所長に着任しました有我孝之と申します。ご挨拶にあたり、まずは、都築委員長をはじめ、かまにし17の編集員の皆様のご努力に深く敬意を表します。私が本紙を拝読して強く感じるのは「地域情報紙にしかできないことを具現化している」ということです。これは、創刊十周年記念号で都築委員長がコメントされた「独自のスタイル」を追求し、たどり着いた姿なのではないでしょうか。

蒲田と言えば、大半の方は、多くの飲食店が集積する駅周辺の活気に満ち溢れた様子を思い浮かべると思いますが、私自身もその一人でしたが、まちをめぐって見て、蒲田の魅力はそれだけではないことがすぐにわかりました。

蒲田西地区は住・商・工が調和・共存し、人にもまちなみにも温もりが感じられます。また、多摩川の自然に育まれ、史跡や神社仏閣など歴史と文化に彩られたまちでもあります。本紙がこれからも、こうした蒲田西地区の魅力を発掘・発信するとともに、蒲田への誇りと愛着を一層深めるきっかけづくりになるものと確

## 編集後記

信じています。私たち職員も、地域の方々に脈々と受け継がれ、営々と築かれてきた蒲田西地区の大切な財産を守り続けるため、事務局の円滑な運営に努めてまいります。

また、区では「地域力が区民の暮らしを支える おおた」を目指しています。大田区の中核を担う蒲田西地区が、さらに安心して快適に暮らせるまちとなるよう、皆様と手を携えながら、諸課題の解決に取り組みしていく所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

今回の特集記事でご紹介した六郷用水について、筆者の多田委員が記録を残すため、資料を探しています。実際に流れていた頃の六郷用水をご存知の方、また、六郷用水関連の写真や古地図などの資料をお持ちの方がいらつしやいましたら、多田委員(携帯 090-9299-8951)へお知らせください。

情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などを事務局までお寄せください。

蒲田西特別出張所  
事務局  
大田区西蒲田七十一-二七  
(三七三二)四七八五

平成24年6月1日発行

# かまにし

第44号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会  
編集 地域情報紙編集委員会

## わがまちの顔

ロス・インディオス  
ボーカリスト

現在も、カラオケでよく歌われている「コモエスタ赤坂」、「別れても好きな人」等の曲で知られているロス・インディオスのボーカリスト、棚橋静雄さんは、東矢口三丁目に住居を構えてから三年近くになります。ご近所には知り合いも多く、親しみやすい人柄のかたです。

棚橋さんは昭和十三年七月生まれの七十三歳で、四男二女の末っ子に生まれました。東京出身、横須賀育ちの湘南ボーイ、私生活では二歳のお孫さんに逢いに行くことを楽しみにしているという、物静かな紳士でした。

高校在学中(逗子開成学園)に軽音楽に興味を持ち、友人たちとハワイアンバンドを結成し演奏活動を開始し、青山学院大学に入学後は、親の援助を受けず自力での生活を目指し、アルバイトでプロのバンドに所属し、以来、音楽活動が本業になりました。

昭和三十四年から四十一年にかけて数度来日した、メキシコのラテンコーラス、トリオロスパンチョスを目的の当たりにした時のショックは大きく、その感動が一つのきっかけとなり、日本の代表的なビッグバンド、

## 棚橋 静雄さん

有馬徹とノーチェクバーナ専属のトリオ・ロス・カノーロスに参加し、ラテン音楽のレパートリーを広げてくださいました。

昭和三十八年、結成直後のロス・インディオスに加入し、昭和三十九年には望まれてバンド・リーダーを引き受け、ついに四年後の昭和四十二年「コモエスタ赤坂」でレコードデビューを果たし、勢いに乗り次曲の「知りすぎたのね」が大ヒット、歌謡コーラスグループとして確固たる地盤を築き上げました。

昭和五十四年、女性ボーカル、シルヴィアさんの加入をうけ「別れても好きな人」がミリオンセラーとなり、有線放送大賞、レコード大賞ロングセラー賞等を受賞し、昭和五十五年から三年連続でNHK紅白歌合戦に出場という快挙を成し遂げました。

ロス・インディオスが当時、マヒナスターズ、東京ロマンチカ、ロスプリモス、敏いとうとハッピー&ブルーといったムード歌謡黄金時代の一翼を担っていたことは、ご存知の通りですが、カラオケの普及とデュエットのブームが大きな力となって背中を押してくれました。

棚橋さんは現在もハワイアンやラテン音楽を中心に、ステージ、テレビ、ラジオ等で音楽活動を行っています。今年には「ロス・インディオス結成五十周年」を迎え、一月には盛大に五十周年記念コンサートが神奈川県と東京で開催されました。また、今年の三月十一日には東日本大震災で被災された皆様に少しでも役に立ちたいと、京王プラザホテルで催されたチャリティー・ショーに出演、協力をしています。

バンド結成当時は、蒲田のキャバレー、レディタウン、金時、ミカドに歌手として、生バンドで歌っていたと、昔を懐かしむように、ある世代を作った歌手として輝くことができたこと、今後は、大人が楽しめる歌をまだまだ歌い続けて行きたいと語ってくれました。

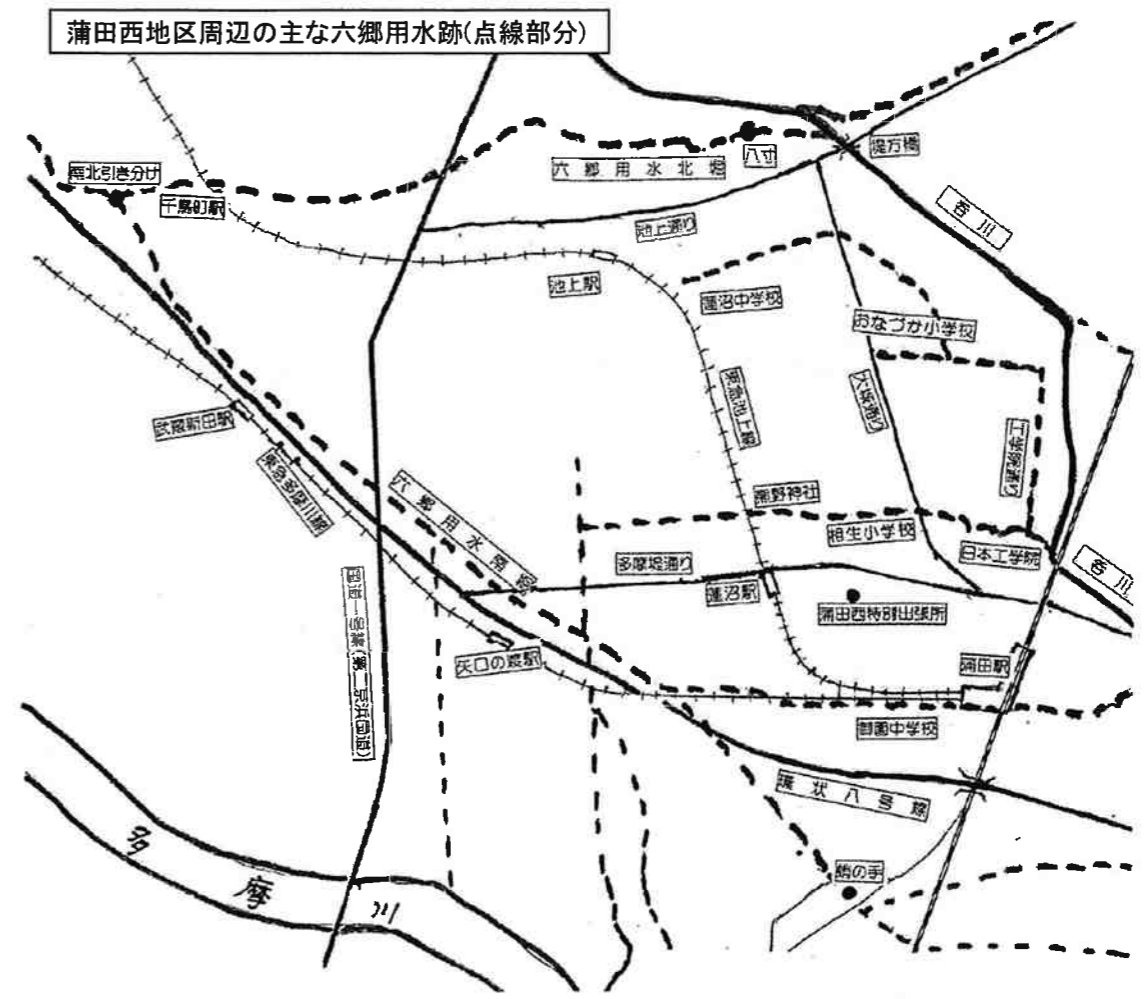
(取材 中村・佐藤委員)



ロス・インディオス&Nina  
(左から)東郷さん、棚橋さん、Ninaさん、三崎さん

# 春の六郷用水散策

記憶から記録に



大田図書館下

ができた。また、今回初めて「筏道」と呼ばれる道があったことを知った。奥多摩から伐り出した材木が多摩川を筏で運ぶという筏乗りたちの仕事はどんな様子だったのか、映画の場面のように想像がふくらんでくる。六郷で筏宿に荷を引渡し、帰途に付く道が六郷用水に沿った道であった。私たちはいつも歴史の子孫であり、先祖がどう考えたかを考えることはとても大切なことであり、また、伝えていくことは、今を生きる人々の責任ではないかと学んだ六郷用水歩きであった。」

(M委員)

「東京の湧水五十七選に選ばれた湧水が流れる水路は、オタマジヤクシの群れ、鯉や小魚なども泳いで

いて水のきれいな流れでした。密蔵院などの古いお寺、庚申塚をながめながら散策しました。女塚一帯にも用水路が作られていた昔はサラサラと流れていたのではないかと思ひながら散策した一日でした。」

(S委員)

「現在地に岐阜より転居して、女塚国民学校に通う道すがらのどぶ川は雨が降るとよくあふれ、学校への板の橋が増水により流され、時には出水したこともありました。このどぶ川がなんと六郷用水だったとはこの探索によって解り、驚くばかりでした。この背景を勉強し、身近にあった六郷用水から鯉の住む町、ホタルの飛ぶ町、緑あふれる町、自然豊かな大田区にしようではありませんか。」

(K委員)

「四百年前の用水開削当時から明治、大正、昭和そして現在に至るまで、それぞれの時代の情景も眼前に浮かぶようであった。そして改めて昭和の初めごろまでは、かまにし地区はもちろん、付近一帯が広大な穀倉地帯であったことを実感した。用水はその殆どが姿を消した今、その跡の多くが主要道路から外れた路側帯に植栽を有する路地状の道として存在している。散策の際には、今日の経験を生かすことで新しい発見や再確認など、ひとつの楽しみが増えた。」

(K委員)

## 蒲田西地区の六郷用水

私たちの住む蒲田西地区は大まかにいうと東西、南北ともにおよそ二キロメートルの範囲で、東西はJRと第二京浜国道に挟まれ、南北は多摩川と香川に接しています。現在のこの地区は駅周辺の繁華街と住宅街、マンション、町工場などから成っていますが、都市化される前はのどかな田園地帯が広がっていました。その田畑を灌漑していたのが六郷用水です。六郷用水の歴史と変遷についてはこれまでにも本紙の第四号と第三十五号で取り上げていますから、ここでは詳しい解説は省略します。

蒲田西地区を流れていた用水はとうの昔に埋め立てられ、今では水辺はすべて姿を消してしまいました。しかし気をつけて歩いていると環状八号線とほぼ並行して大田区民センター辺りの蛸の手まで続く南堀本流跡や、おなづか小学校周辺(北堀の分流)の緑道が当時を偲ばせてくれます。また蓮花寺や熊野神社の前から相生小学校の北側を通り、大城通りを横切って日本工学院の中を抜けて香川に落ちる用水跡などもたどって歩くことができました。かつて東急線の南側(御園中学校前)に沿ったところにも六郷用水が流れていて、JRの線路をくぐって東口に出て、松竹蒲田撮影所前



鶉の木出張所前

**風化する記憶と高まる関心**

六郷用水が埋め立てられ始めてから半世紀が経とうとしています。当時子供たちであった人々たちも、もう還暦を過ぎようとしています。埋め立て後にこの地区に移って来られた方は知らないのは当然ですが、土地っ子の方でも六郷用水の記憶が風化しかかっています。今すぐその記憶を記録として残しておくかなければ、永遠に忘れ去られてしまうでしょう。

筆者(多田)は南堀の末端近く、御園二丁目(現在の新蒲田一丁目)で生まれ育ちました。子供の頃の遊び場だった六郷用水について長年勉強しており「六郷用水の会」という会にも参加しています。この会は六郷用水完成四百年(二〇一一年)を顕彰するために教育委員会の区民大学「水先案内人講座」六郷用水に学ぶ」の受講生が立ち上げたグ

(現在のアプリコ)に架かっていた松竹橋から香川へとながっていましたが(逆川)。区画整理によって町並みは大きく変わってしまいました。したが、まだ当時の面影が残っているのです。

## 編集委員で六郷用水跡を散策

「かまにし17」編集委員会では、有志で東急多摩川線の沼部駅周辺から工学院通りまで六郷用水をたどって歩いてみました。実際に歩いた三月下旬は例年だと沼部地区の親水散策路が桜できれいなのですが、今年は冬が寒かったせいかもしれませんが、今年が冬が寒かったせいかもしれませんが、開花してなく、その代わりに途中で寄った西嶺町の梅の里では紅梅、白梅が満開に咲き誇っていました。南北引き分けからは北堀に沿って歩き、堤方橋手前の八寸周辺では、一旦は香川と合流し、下流の堰によって香川と分かれ新井宿方面に流れる六郷用水や、女塚方面への分流を確認しました。参加委員がそれぞれ歩いた感想を書いているのですが、紙面の都合で、ほんの一部だけを載せさせていただきます。

「勉強になりました。楽しい一日でした。」(S委員)

「徳川家康が行った農地開発により多摩川流域の農業生産規模が拡大し、三百年余、灌漑用水として江戸、明治期の村々は豊かな恩恵を受けてきたことを身近に学ぶこと

ループで、写真展やシンポジウムの開催、資料作成、ウォークガイド、学校での出張授業、など「歴史遺産を未来遺産へ」をモットーに活動を続けています。

昨年の完成四百年記念イベントに続いて、今年度から区内の公立小学校では四年生で六郷用水の学習が必修になったこともあり、区民の関心は高まっています。会では大田区の助成を受け「六郷用水聞き書き集(仮題)」の刊行に取り組んでいます。先述のように今(からでは遅いくらいですが)記録しておかないと、貴重な大田の歴史遺産を語り継ぐことができなくなるという危機感を持っているからです。もう一度わがまちの六郷用水を見直してみませんか。

(取材 鎌田、国広、下山、瀬川、六車、多田委員)



密蔵院前